

授 業 科 目 名	保育者論	教 員 名	山下 愛実	免許・資格 との関係	小学校教諭	
					幼稚園教諭	
授 業 形 態	講義	担当形態	単独	卒業要件	保育士	必修
科 目 番 号	SEN105	配当年次	1年後期		こども音楽療育士	
単 位 数	2単位			小幼コース	選択	
科 目						
施 行 規 則 に 定める科目区分 又は事項等						
科 目	告示別表第1による教科目					
系 列	保育の本質・目的に関する科目					
一 般 目 標	保育者に求められる資質と役割、保育者の仕事内容、保育者の専門性など、保育者という仕事の概論を理解する。また、保育者の学び合う姿勢が保育者としての専門性の向上につながることを理解する。					
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育者の役割と倫理について理解する。 2. 保育士の制度的な位置づけを理解する。 3. 保育士の専門性について考察し、理解する。 4. 保育者の連携・協働について理解する。 5. 保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。 					
授 業 の 概 要	<p>保育者の役割と倫理、制度的な位置づけを理解しつつ、保育者の専門性を多面的に考察する。さらに、保育者としての専門性を向上させるために資質向上やキャリア形成に取り組んでいく必要性を理解する。</p> <p>アクティブラーニングとして、振り返り、グループディスカッション、グループレポート、個人レポートなどを取り入れる。</p>					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「5.教育実践力を身につけている。」「6.教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授 業 計 画	<p>第1回：講義概要の説明（本講義の主旨および講義計画について） ワークショップ「目指したい保育者とは」（目標1）</p> <p>第2回：保育者としての役割と倫理I（目標1） ・役割、職務内容（年間の子どもの姿から捉える）</p> <p>第3回：保育者としての役割と倫理II（目標1） ・役割、職務内容（1日の子どもの姿から捉える）</p> <p>第4回：保育者としての役割と倫理III（目標1） ・倫理</p> <p>第5回：保育士の制度的位置付けI（目標2） ・児童福祉法における保育士の定義</p> <p>第6回：保育士の制度的位置付けII（目標2） ・資格・要件・責務</p> <p>第7回：保育士の専門性I（目標3） ・保育士の資質 ・養護と教育の一体的展開、保育課程</p> <p>第8回：保育士の専門性II（目標3） ・子ども理解と援助</p> <p>第9回：保育士の専門性III（目標3） ・家庭との連携と保護者に対する支援、保護者との協働</p> <p>第10回：保育士の専門性IV（目標3）</p>					

	<ul style="list-style-type: none"> ・計画に基づく保育の実践と省察、対話を通じた学び、自己評価 <p>第11回：保育士の専門性V（目標3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域における自治体や関係機関、小学校との連携 <p>第12回：保育者の連携・協働I（目標4）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育における職員間の連携・協働 <p>第13回：保育者の連携・協働II（目標4）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門職間及び専門機関との連携・協働 <p>第14回：保育者の資質向上とキャリア形成I（目標5）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資質向上に関する組織的取組 ・保育者の専門性の向上とキャリア形成の意義 <p>第15回：保育者の資質向上とキャリア形成II（目標5）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織とリーダーシップ <p>期末試験</p>
学生に対する 評価	<p>受講姿勢（グループワーク・発表等）20%、ワークシート・提出物20%、期末試験60%</p> <p>なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コメントを記載して返却する。 ・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。 ・答案例を配布する。
時間外の学習 について	<p>（事前・事後学習として週4時間以上行うこと。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習した内容についてプリントで再確認しておく。また、これまで配布したプリントを再読し、理解を深め、不明点は質問する。 ・講義を受けて、レポート課題があるときは、必ず次回の授業で提出すること。 ・講義で使った資料やノートのファイル管理を徹底すること。 ・講義で使用したテキスト箇所を必ず復習しておくこと。
テキスト	<p>汐見稔幸・大豆生田啓友監修（2019）『アクティベート保育学02 保育者論』ミネルヴァ書房</p>
参考書・ 参考資料等	<p>厚生労働省（2018）『保育所保育指針解説』フレーベル館</p> <p>文部科学省（2018）『幼稚園教育要領解説』フレーベル館</p> <p>内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018）『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』フレーベル館</p> <p>『全国保育士会倫理綱領』</p> <p>なお適宜資料を配布する。</p>
担当者からの メッセージ	<p>積極的に授業に参加する中で、子どもの育ちの豊かさや子どもの育ちを支える保育の面白さに触れ、子どもへの関心や保育の理解が深まることを期待します。</p>
オフィスアワー	<p>授業の前後の時間（メール等でアポイントを取ること）</p>